

## チリ、フィニステラエ大学への留学を終えて

私たちは、10月1日から11月21日までの2か月間、チリのフィニステラエ大学に留学しました。

### ◎チリを選んだ理由

私たちがこの大学を選んだ理由は、南米ならではの温かい人間関係や多文化的な環境の中で、歯科医療を通じてコミュニケーションの大切さを学びたいと思ったからです。チリの歯科医療の現場を体験し、日本との違いを理解することで、将来の臨床に活かせる貴重な経験になりました。

### ◎チリという国とフィニステラエ大学について

チリの人口は約1976万人、面積は日本の約2倍の広さがあります。首都はサンティアゴで、公用語はスペイン語です。日本との時差は12時間あり、昼夜がほぼ反対になります。フィニステラエ大学は、サンティアゴにあり、医学部、歯学部、工学部、建築、法学部など合計9学部を有しています。学生数はおよそ1万人規模に達しています。この大学は1988年に設立された比較的新しい私立大学ですが、医療系、とくに歯学教育に力を入れていることで知られています。

### ◎大学生活について

月曜日と火曜日が9:30~13:00、水曜日と木曜日が9:30~13:00に授業があり、14:30~18:00、金曜日から日曜日は休みでした。

月曜日は、3年生の授業に参加させていただきました。麻酔、スケーリング、そしてラバーダムの装着といった実習を見学したり、隣で助手を務めたりしました。クリーニングやスケーリングは実際に私たちも体験させていただき、器具の扱い方や手技の正確さの重要性を改めて実感しました。これらの内容の中には、日本ではまだ習っていないものもあり、とても興味深かったです。新しい知識や技術に触れることで、自分の学びの幅が広がったように感じました。チリの学生たちはとても積極的で、先生とのコミュニケーションも活発であり、学びに対する姿勢にも多くの刺激を受けました。短い期間でしたが、臨床の現場に近い雰囲気の中で学ぶことができ、非常に貴重な経験となりました。

火曜日から木曜日までは、より実践的な内容の授業に参加しました。先生と一対一でタービンやマイクロモーターの使い方を教わり、模型を使ってう蝕治療の手順を学んだりしました。また、手術室に同行する機会もあり、徹底した衛生管理の下で行われる智歯の抜歯や縫合の様子を見学しました。これらの経験を通して、将来の臨床に必要な知識と技術への理解が一層深まり、歯科医療の現場で働くことへの意識が高まりました。

そして、留学中に現地の先生と生徒に向けて3つのプレゼンテーションをする機会がありました。テーマは、「チリと日本の歯科教育の違い」、「日本文化」、「チリでの経験」でした。日本文化についてのプレゼンでは、折り紙で「かえる」を一緒に折って、折バラをプレゼントしました。

また、10月30日に留学生が参加するフィニステラエ大学主催の国際料理フェスティバル(Feria Gastronomica Internacional)というイベントがあり、大学内で母国の料理を販売しました。私たちは日本料理(焼きそばと抹茶)を販売しました。チリの人たちはソース味が口に合うようで、約50食分がすぐに完売しました。抹茶も濃い味が好まれたので、チリではソース味など濃い味のを販売することをお勧めします。チリの人たちは、日本の文化や食べ物に非常に興味を抱いてくれており、沢山の方に話かけ

ていただきました。また、他の国から来た留学生とも交流して、その国の料理を体験することができ、国際的でとても楽しいイベントでした。

#### ◎チリと日本の歯科教育の違い

チリと日本の歯科教育には、教育課程の進め方や臨床に入る時期、卒業・資格取得の方法などに大きな違いがあります。

日本では基礎教育から臨床へと段階的に進むカリキュラムが一般的で、4年次に臨床前実習が始まり、5年次から実際の患者さんを担当します。一方、チリでは基礎科目と臨床科目を並行して学ぶ仕組みが採用されており、4年次の段階で患者を診る機会があります。そのため、より早い段階から臨床経験を積むことができる点が特徴的でした。

また、卒業や資格取得の方法にも違いがあります。日本では、全ての必修科目と卒業試験に合格し、その後に国家試験に合格して初めて歯科医師として認められます。一方、チリでは大学内で行われる口頭試験と臨床課程の修了をもって卒業資格が与えられ、そのまま歯科医として働くことができます。このように、制度そのものが大きく異なるため、学生生活や臨床経験の積み方にも大きな差があることを学びました。

#### ◎生活について

大学から徒歩10分のアパートに2か月間滞在しました。プロビデンスシアのカリフォルニア通りで、治安も良好でした。現地での支払いに関しては、クレジットカードが広く普及しており、スーパーやレストランなど多くの場面でカードを使うことができました。現金で支払えない場合もあったため、地方に行く場合以外は、現金はほとんど必要ありませんでした。言語面では、英語があまり通じない印象を受けました。ホテルや空港では英語で対応していただけでしたが、街中ではスペイン語のみという場面が多く、簡単なあいさつや数字の言い方を覚えておくのが便利でした。物価については、全体的に日本と大きな違いはありませんでしたが、外食はやや高めで、一般的なレストランでは1食あたり2,000円前後かかりました。治安面については、大学の周辺は比較的安全でしたが、地下鉄で数駅離れた場所ではスリなどの被害があるとの話を聞きました。特に旧市街地付近は注意が必要で、訪れる際は必ず現地の友達一緒に行くようにしていました。治安に関しては、エリアごとの状況が変わりやすいため、現地の先生や友人に最新の情報を確認することをおすすめします。

#### ◎留学を終えて

今回のチリ留学は、学術的にも、そして人間的にも大きく成長できた貴重な経験となりました。フィニステラエ大学では、講義や実習を通して日本とは異なる教育スタイルや臨床への向き合い方に触れ、歯科医療における多様な視点を学ぶことができました。また、現地の学生や先生方、地域の方々との交流の中で、言語や文化の壁を越えてコミュニケーションを取る難しさと楽しさの両方を実感しました。スペイン語圏ということもあり、英語での会話に苦戦する場面もありましたが、相手が根気強く理解しようとしてくれたことや、互いに学び合おうとする姿勢に何度も励まされました。今回の留学を通して得た知識や経験は、今後の歯科医療を学ぶ上で必ず大きな糧になると感じています。特に、多様な価値観を持つ人々に寄り添い、丁寧なコミュニケーションを心がける大切さを改めて学びました。

#### ◎謝辞

本留学を無事に終えるにあたり、留学前から留学中、留学後に至るまで、ご指導いただいた 先生、  
そして現地で温かく迎え、支えてくださった 先生に深く感謝申し上げます。